農業・農協問題研究所北海道支部ニュース
北のフロンティア
№49　2015年5月31日
発行：農業・農協問題研究所北海道支部
札幌市中央区北4条西1丁目共済ビル
道農協労連内℡011-232-0676

畑作及び酪農地域における正組合員と准組合員の消費動向に関して
美瑛町農協の調査実施

道支部は研究所本部からの委託調査として、4月14～15日上川管内の美瑛町農協を訪問、畑作・酪農地域における組合員の農協利用実態、特に准組合員の利用実態について調査を行いました。

組合員の消費動向から農協の位置づけ考える

今回の調査は、農協利用の実態酪農学園大学の相原延英講師を中心に、井上誠司酪農学園大学教授（支部運営委員）、市川支部長、九村事務局長が参加しました。

美瑛町農協は上川管内中央部に位置し、正組合員765人・527戸、准組合員1，738人（いずれも2012年）、畑作が中心に稲作、酪農など多岐にわたる品目を扱っています。近年「美瑛選果」の名で独自の加工・販売に取り組んでいます。そうした中で組合員、特に准組合員の消費動向を通して、地域における農協の地位、役割などをアンケート方式で調査しました。

まず、美瑛町農協の山本穂澄氏の案内で紹介頂いた正組合員3戸を訪問。それぞれ農作業中にも係らず快く調査に協力頂きました（左写真）。

いずれの方々も日常品は車で30分ほどの旭川市内の量販店で購入するということでしたが、農協の指導事業や資材などの購買事業に対し、情報提供や品揃え、価格の上でも評価する声が共通して出され、現在論議されている「農協改革」についても、「現場の実態を見ていない論議」「農業・農協がなくなれば地域は崩壊する」との指摘がありました。

農協への信頼 准組合員にも

続いて准組合員として3名の方からお話を伺いました。准組合員になったのは「利用時に勧められたから」ということでした。農協利用は生活店舗（農協本所1階にある別会社「ホクレンショップ」）や住宅・自動車購入の際の融資、共済加入がほとんど。「自宅や職場から農協が近い」「金利などで他金融機関より条件が良かった」との理由でした。農協への評価を伺うと「職場にも農協の担当者が頻繁に来て情報を提供してくれる」「信金などは町外への異動があって担当者が変ってしまうが、農協だと他部署へ異動しても地域で会う機会もあり対応してくれる」「共済などの商品についても他と比べても良く信頼感がある」との評価でした。また共通して、美瑛において農業が基幹産業であり、農業に直接関わっていなくても関係していなくても農協への信頼は高いとの声が出されました。農協に対して「准組合員になったことへの特典があったら良い」「町内全体へのアピールが足りない」などの要望が出されました。（写真右）

支部では引き続き農協側への聞き取り調査を予定しています。